

社会学専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 学期	曜日	講時	頁	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
理論社会学特論Ⅰ	ハーバーマスの社会理論	2	永井 彰	2学期	水	2	1	理論社会学特論
理論社会学特論Ⅱ	リスクと無知の社会学	2	小松 丈晃	2学期	火	4	2	対応科目なし
社会変動学特論Ⅰ	社会運動の社会学	2	中川 恵	1学期	月	2	3	社会変動学特論
社会変動学特論Ⅱ	生命科学・医学研究と社会	2	田代 志門	1学期	火	3	4	対応科目なし
社会学特論Ⅰ	質的フィールドワーク概論	2	徳川 直人	1学期	水	3	5	社会学特論Ⅰ
社会学特論Ⅱ	コミュニケーションの視点から地域社会を考える	2	佐久間 政広	1学期	火	5	6	社会学特論Ⅱ
社会学特論Ⅲ	フランス社会学史と現代思想	2	太田 健児	2学期	水	4	7	社会学特論Ⅲ
社会学研究演習Ⅰ	質的社会調査法	2	永井 彰	1学期	金	2	9	対応科目なし
社会変動学研究演習Ⅰ	農と食の社会学	2	中川 恵	1学期	月	3	10	社会変動学研究演習Ⅰ
社会変動学研究演習Ⅱ	質的研究の最前線	2	田代 志門	2学期	火	3	11	社会変動学研究演習Ⅱ
理論社会学研究演習Ⅰ	リスクと不確実性の社会学	2	小松 丈晃	1学期	火	2	12	理論社会学研究演習Ⅰ
理論社会学研究演習Ⅱ	ハーバーマスの現代福祉国家論	2	永井 彰	2学期	水	1	13	理論社会学研究演習Ⅱ
社会学研究実習Ⅰ	社会調査実習(1)	2	永井 彰、小松 丈晃、田代 志門	1学期	金	3・4	14	社会学調査実習Ⅰ
社会学研究実習Ⅱ	社会調査実習(2)	2	永井 彰、小松 丈晃、田代 志門	2学期	金	3・4	15	社会学調査実習Ⅱ

科目名：理論社会学特論 I / Theoretical Sociology (Advanced Lecture) I

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：永井 彰（教授）

講義コード：LM23208， 科目ナンバリング：LIH-SOC601J， 使用言語：日本語

【（平成 30 年度以前入学者）対応科目名： 理論社会学特論 】

1. 授業題目：

ハーバーマスの社会理論

2. Course Title（授業題目）：

Social Theory of J. Habermas

3. 授業の目的と概要：

ハーバーマス社会理論を社会学理論の展開史のなかに位置づけその特徴を明らかにするとともに、ハーバーマス社会理論の論理構造を明示化し、その「可能性の中心」について検討する。

4. 学習の到達目標：

ハーバーマス社会理論の論理構造について理解できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. ハーバーマス研究の視座と方法
3. 社会学の社会理論におけるハーバーマス理論の位置（1）
4. 社会学の社会理論におけるハーバーマス理論の位置（2）
5. 社会学の社会理論におけるハーバーマス理論の位置（3）
6. 社会学の社会理論におけるハーバーマス理論の位置（4）
7. コミュニケーション行為理論の論理構造（1）
8. コミュニケーション行為理論の論理構造（2）
9. コミュニケーション行為理論と公共圏論
10. コミュニケーション行為概念の再規定
11. 生活世界論の再構成
12. 生活世界とシステム
13. ハーバーマスの社会理論の視座と方法
14. 再構成的社会学の可能性
15. 講義のまとめ

6. 成績評価方法：

（○）レポート [50%] （○）その他（受講票の提出など）[50%]

7. 教科書および参考書：

永井 彰『ハーバーマスの社会理論体系』東信堂、2018 年。

8. 授業時間外学習：

授業前に、教科書の該当箇所を読んでおくこと。

授業後に、レジュメを参照しながら、教科書の該当箇所を読むこと。

9. その他：なし

科目名：理論社会学特論Ⅱ／ Theoretical Sociology(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

学期：2 学期， **単位数：**2

担当教員：小松 丈晃（教授）

講義コード：LM22407， **科目ナンバリング：**LIH-SOC602J， **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 対応科目なし 】

1. 授業題目：

リスクと無知の社会学

2. Course Title (授業題目)：

sociology of risk and non-knowing

3. 授業の目的と概要：

講義形式で進める授業である。現代社会は、自然災害と科学技術が連動しあう複合災害のリスクに備えなければならない。この授業では、社会的なリスクや安全に関する研究を概観しながら、複雑化する現代社会におけるリスクとのつきあい方について考えていきたい。最初に、社会学におけるリスクに関する議論を概説し、その後、科学社会学の展開状況もふまえながら、科学に対する信頼や専門知の責任について考察する。最後に、東日本大震災をはじめとする超広域複合災害を念頭におきながら、リスクと信頼と無知（想定外）の間の捻れた関係、またそれがもたらす問題について、組織論の観点もまじえながら、考察する。

4. 学習の到達目標：

- ・現代社会が直面するリスクとのつきあい方について、自分なりに考察できる手がかりを得る。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. リスク論事始め
2. リスク社会学再考—U. ベックの社会学理論の検討—
3. 社会学システム論によるリスク研究—N. ルーマンについて—
4. メアリー・ダグラスのリスク論と E. デュルケムの観点
5. リスクと道徳（1）
6. リスクと道徳（2）
7. リスクと道徳（3）
8. リスク社会と信頼（1）
9. リスク社会と信頼（2）
10. リスク社会と信頼（3）
11. リスクの社会的増幅・減衰の枠組み(SARF)
12. リスクと信頼の捻れた関係—新制度派組織論の視点—
13. 「想定外」の社会学—「無知」とどうつきあうか—（1）
14. 「想定外」の社会学—「無知」とどうつきあうか—（2）
15. まとめ

6. 成績評価方法：

授業終了後のコミュニケーションペーパーへの記入内容と平常点 40%＋学期末のレポート提出 60%で評価

7. 教科書および参考書：

教科書はありません。参考書は、授業の各トピックに応じて、必要なものを適宜指示する

8. 授業時間外学習：

授業において、適宜、学習課題を出す予定

中間レポートも提出してもらいます

9. その他：なし

科目名：社会変動学特論 I / Theory of Social Change(Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 月曜日 2 講時

学期：1 学期, **単位数：**2

担当教員：中川 恵 (非常勤講師)

講義コード：LM11207, **科目ナンバリング：**LIH-SOC603J, **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 社会変動学特論 】

1. 授業題目：

社会運動の社会学

2. Course Title (授業題目)：

Sociology of Social Movements

3. 授業の目的と概要：

社会運動の表出形態は様々ですが、イシューや担い手、動態などに共通点や傾向も見出されてきました。本講義の目的は、社会運動論の見方を理解し、こうした見方を通じて社会の変化を捉えることの可能性と課題について考察することです。

4. 学習の到達目標：

1. 社会運動論を中心とした社会学の専門知識を習得する。
2. 関連する社会課題・事象について関心を広げる力を伸長する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

文献購読とレポート作成を軸に授業をすすめます。文献購読では要約と論点整理の担当者を決めて、文献の内容確認をしたあとに議論を通じて考察を深めます。レポートは、先行研究の議論を踏まえて各自作成し、中盤以降におこなう相互のコメントをふまえて期末に提出することとします。

1. ガイダンス／2. 文献購読 (1) ／3. 文献購読 (2) ／4. 文献購読 (3) ／
5. 中間レポート構想発表／6. 文献購読 (4) ／7. 文献購読 (5) ／8. 文献購読 (6)
9. 文献購読 (7) ／10. 文献購読 (8) ／11. 文献購読 (9) ／12. 文献購読 (10)
13. 期末レポート発表 (1) ／14. 期末レポート発表 (2) ／15. 総括

6. 成績評価方法：

講義への参加度およびコメントカード [50%]、レポート [50%]

7. 教科書および参考書：

大畑裕嗣・成元哲・道場親信・樋口直人編、2004、『社会運動の社会学』有斐閣。

参考書は適宜指示します

Textbooks are available for purchase at the University Co-op. The reference will be designated at the beginning of the course.

8. 時間外学習

文献購読の際には、事前に指定の参考文献を熟読して論点を整理しておくこと。

Students are required to prepare for class according to the goal and contents of each class.

8. 授業時間外学習：

文献購読の際には、事前に指定の参考文献を熟読して論点を整理しておくこと。

Students are required to prepare for class according to the goal and contents of each class.

9. その他：なし

科目名：社会変動学特論Ⅱ／ Theory of Social Change(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時

学期：1 学期, **単位数：**2

担当教員：田代 志門 (准教授)

講義コード：LM12305, **科目ナンバリング：**LIH-SOC604J, **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 対応科目なし 】

1. 授業題目：

生命科学・医学研究と社会

2. Course Title (授業題目)：

Biomedicine and Society

3. 授業の目的と概要：

生命科学・医学研究は「ヒト」を直接の研究対象とすることにより、私たちの人間観や社会観に大きな影響を与えてきた。この授業では、生命科学・医学研究の進展がもたらす倫理的・法的・社会的課題について、基礎から応用まで様々な具体例を取り上げ、社会科学적인視点から検討する。

4. 学習の到達目標：

- (1) 生命科学・医学研究の倫理的・法的・社会的課題に関する基本的な知識を得る。
- (2) 上記の課題を文化や社会構造と関連づけて理解することができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 イントロダクション 生命操作の現在
- 2 生殖医療 (1)
- 3 生殖医療 (2)
- 4 遺伝医学 (1)
- 5 遺伝医学 (2)
- 6 再生医療 (1)
- 7 再生医療 (2)
- 8 臨床研究 (1)
- 9 臨床研究 (2)
- 10 臨床研究 (3)
- 11 医薬品開発のグローバル化 (1)
- 12 医薬品開発のグローバル化 (2)
- 13 研究者の社会的責任 (1)
- 14 研究者の社会的責任 (2)
- 15 まとめ

6. 成績評価方法：

授業時の平常点 50%、課題レポート 50%

7. 教科書および参考書：

教科書・参考書は教室で指示する。Textbooks and reference materials will be shown in class.

8. 授業時間外学習：

適宜、授業で指示した課題に取り組む。Take-home assignments will be given in class as appropriate.

9. その他：なし

この授業では、授業内容の理解を深めるために、具体的な事例について受講生同士で議論する機会を設ける予定です。ぜひ積極的に授業に参加してください。There will be opportunities to discuss actual examples with your classmates to deepen your understanding of the course material. Active in-class participation is expected.

科目名：社会学特論 I / Sociology(Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時

学期：1 学期, **単位数：**2

担当教員：徳川 直人 (兼務教員)

講義コード：LM13308, **科目ナンバリング：**LIH-SOC605J, **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 社会学特論 I 】

1. 授業題目：

質的フィールドワーク概論

2. Course Title (授業題目)：

Methods of Qualitative Fieldwork in Sociology

3. 授業の目的と概要：

社会学における質的方法の理論と方法について、より深く学ぶ。参加者はオリジナル教材を読み、資料収集、日常観察、フィールドノーツなどの実践を試みることで、理解を深める。その基礎のうえにたつて、モダンバージョンの理論・方法とポストモダンバージョンの理論・方法とのちがいについて学び、新しい基準、倫理なども理解する。

4. 学習の到達目標：

- 1) 質的研究法の技法、考え方、意義と限界が、より深く理解できるようになる。
- 2) フィールドワークやインタビューを実践できる必須素養が身につく。
- 3) 調査のモラルと倫理、責任について、より深く考慮できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

以下の順に講じる。各項目についての下読みおよび宿題が必須である。毎回の授業で参加者はキーワードの説明や質問を求められる。学期末には試験ではなくレポートを課す。

1. 質的分析法入門
2. 感受概念
3. 方法としてのフィールドノート
4. 非構造的・半構造的インタビューと調査票の設計
5. 聞き書き
6. インタビュー
7. 自然主義的観察
8. 参与観察
9. グラウンデッドな接近法
10. エスノメソドロジー
11. エスノグラフィー
12. 事例分析とモノグラフ
13. 生活史とヒューマン・ドキュメント
14. アクション・リサーチ
15. 調査倫理

6. 成績評価方法：

平常点 (50%) と学期末レポート (50%) を総合的に加味して評価する。

7. 教科書および参考書：

デンジン&リンカン『質的研究ハンドブック』、エマーソンら『方法としてのフィールドノート』(1995)、シュワント『質的研究用語事典』(2007)、細谷『現代と日本農村社会学』(1998) など複数を教室にて指示する。また、教材の読み物としてオリジナル資料を作成する。

Books and papers will be introduced in class, such as Handbook of Qualitative Research by Denzin and Lincoln, Writing Ethnographic Fieldnotes by Emerson et.al. (1995), Dictionary of Qualitative Inquiry by Schwandt (2007), Japanese Rural Sociology and the Modern World by Hosoya (1998), etc., with original texts written by the lecturer.

8. 授業時間外学習：

各項目についての下読みおよび宿題が必須である。

Students are required preparatory readings and some home works.

9. その他：なし

ISTU にて読み物等を閲覧し学期末レポートを提出する。質問ややむをえない欠席連絡のためメールを随時利用してよい。

ISTU is available to share text or material and submit term paper. Students can use email to send questions or notify unavoidable absence.

科目名：社会学特論Ⅱ／ Sociology(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：前期 火曜日 5 講時

学期：1 学期， **単位数：**2

担当教員：佐久間 政広（非常勤講師）

講義コード：LM12507， **科目ナンバリング：**LIH-SOC606J， **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 社会学特論Ⅱ 】

1. 授業題目：

コミュニケーションの視点から地域社会を考える

2. Course Title (授業題目)：

On regional communities in terms of communication

3. 授業の目的と概要：

本講義では、コミュニケーションを関与者のあいだの意思疎通ではなく、関与者それぞれの営みが連動する事態としてとらえ、こうしたコミュニケーションの見地から、地域社会の諸事象の説明をおこなう。現実の地域社会を構成するコミュニケーションは、資源配分の観点からみるといくつかに区分され、それらはそれぞれ固有の理屈にしたがって展開されている。地域社会の諸問題を考えるには、この理屈を踏まえることが不可欠である。講義では、具体的な地域社会の事例（とくに過疎山村の高齢者の生活実態）を示し、理解を深める。

4. 学習の到達目標：

- ①地域社会において営まれる共同活動の理屈を説明できる。
- ②資源配分の見地から地域社会を分析し、地域社会の仕組みを説明できる。
- ③現代日本における地域社会の現状と歴史的変化について大まかに説明することができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション：コミュニケーションとは何か
2. 山村における高齢者の生活実態
3. 地域社会の助け合いに期待できるか
4. 地域社会の共同活動の論理
5. 地域社会と家族：なぜ家族は援助するのか
6. 地域社会と自我：なぜ高齢者は住み慣れた地を離れないか？
7. 贈与論という視点
8. 贈与交換と市場交換
9. 互酬／市場／再分配
10. 資本主義と欲望
11. 国民国家と再分配
12. 都市と農村
13. 経済経済と地域社会①：戦後復興期、高度成長期
14. 経済発展と地域社会②：低成長期、グローバリゼーション期
15. まとめ：地域社会の共同性を考える

6. 成績評価方法：

授業への取り組み 50%、レポート 50%

7. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。各自ノートを取ること。[No textbooks will be used. Students should take notes on their own.]

8. 授業時間外学習：

新聞や書籍を通して、授業内容に関する情報や話題を収集すること。[Students are required to collect information and topics related to the content of the class using newspapers and books.]

9. その他：なし

科目名：社会学特論Ⅲ／ Sociology(Advanced Lecture)Ⅲ

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

学期：2 学期， **単位数：**2

担当教員：太田 健児（非常勤講師）

講義コード：LM23406， **科目ナンバリング：**LIH-SOC607J， **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 社会学特論Ⅲ 】

1. 授業題目：

フランス社会学史と現代思想

2. Course Title (授業題目)：

History of French Sociology and Contemporary Thought

3. 授業の目的と概要：

フランス社会学史を理解しその今日性を検討する。現代は各学問分野がそれぞれ越境する状況がさらに加速しており、狭隘な社会学理解に止まらず、そのような越境模様にきめ細やかに辿っていくことが最重要である。これが、現代社会の諸問題に対するより適切な診断と処方とを可能にし、社会学のディシプリン再生につながる。それゆえ授業は、まずフランス社会学史を当時の社会背景との絡みで見直しながらも、今日の問題とリンクさせ、フランス現代思想のいくつかとの越境を見極めていく作業とし、最終的には社会学のディシプリン再生に収斂させた議論にしていく。

4. 学習の到達目標：

1. フランス社会学史及びフランス現代思想の基本理論を理解する。
2. 社会学理論誕生の社会的背景と結びつけて社会学理論を理解する思考術を身につける。
3. 古典的理論が現在の問題解決にどのように寄与できるのか、その今日性を考える。
4. 各分野がこれまで越境しながら自らのディシプリンを形成してきた事実、そして今日もそれが続いている状況も理解する。
5. 最終的に社会学独自のディシプリンの在り方を考えていく。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

以下に示す授業内容を講義・テキスト講読・ディスカッションなどを組み合わせて遂行していく。進度、授業内容に関しては、受講生の皆さんの意見を尊重し適宜調整します。

- 1 社会学史研究の意義
- 2 フランス社会学史(1) ー実証主義の再検討の立場から：コントからデュルケム以前
- 3 フランス社会学史(2) ー政教分離と社会思想ー(2)
- 4 フランス社会学史(3) ー社会思想から社会学へ：デュルケム社会学の誕生：『社会学的方法の規準』とその周辺
- 5 フランス社会学史(4) ーデュルケム社会学の問題：社会実在論論争
- 6 フランス社会学史(5) ーデュルケム社会分業論における人格概念
- 7 フランス社会学史(6) ーデュルケムのモラルサイエンスと社会学
- 8 フランス社会学史(7) ー『宗教生活の原初形態』から宗教社会学へ
- 9 現代思想と社会学(1) ーR ベラー以降の市民宗教論とその現在ー
- 10 現代思想と社会学(2) ーボランティエ不要論・偽善論とモースの贈与論ー
- 11 現代思想と社会学(3) ー社会運動・学生運動を知らない若者たちと A. トゥレーヌ以降の社会運動論ー
- 12 現代思想と社会学(4)ーフーコーの今ー
- 13 現代思想と社会学(5)ーエピステモロジーと社会学ー
- 14 現代思想と社会学(6)ー先端社会論としての社会学的ディアボリズム論ー
- 15 社会学のディシプリン再生に向けて

6. 成績評価方法：

授業への取り組み 50% レポート 50%

7. 教科書および参考書：

教科書 各テーマに合わせてプリント・資料を前の授業時間内に配布する。

Handouts will be distributed in the class

参考書

デュルケム、菊谷和宏訳『社会学的方法の規準』

その他、各社会学者、各思想家の各原典（原書でなくても良い）、研究書。

Durkheim, The Rules of Sociological Method.

Reading fundamental literatures of famous sociologists and philosophers is strongly recommended.

*J.M. Bertherot, 2000, Sociologie Epistémologie d' une discipline, De Boeck.

（*この文献はあくまでもフランス語履修歴のある方にとっての力試的な参考書なので、この講読を前提とした授業展開は行いません。）

（*The book is recommended to those who has studied french）

8. 授業時間外学習：

学術論文、書籍、新聞・雑誌、ネットなどから授業内容に関する知識、情報、知見を貪欲に収集すること。

Students are recommended to acquire the knowledge, information and opinion related to the subject matter by using the articles, the journals, the books, the newspapers, the periodicals and the internet.

9. その他：なし

一見すると古色蒼然たる授業内容に思えるかもしれませんが、それらを通した議論の中から今日性つまり問題解決理論としての有効性を摘出するようにします。

At first glance, the material covered in this class may appear to be ancient. However, as we discuss the material, we will look at how parts of the material can be effective regarding problem-solving theory.

科目名：社会学研究演習 I / Sociology (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：永井 彰（教授）

講義コード：LM15208， 科目ナンバリング：LIH-SOC608J， 使用言語：日本語

【（平成 30 年度以前入学者）対応科目名： 対応科目なし 】

1. 授業題目：

質的社会調査法

2. Course Title（授業題目）：

Qualitative Research Methodology

3. 授業の目的と概要：

質的調査法について学ぶとともに質的調査法に基づいた調査設計を考えることのできる能力を習得する。

4. 学習の到達目標：

- ・質的社会調査の歴史と意義を理解できるようになる
- ・質的社会調査の方法によってデータを収集・分析できるようになる

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回：授業のガイダンス
- 第2回：質的調査法の考え方
- 第3回：質的調査法の技法
- 第4回：フィールドワークの考え方
- 第5回：フィールドワークの技法
- 第6回：参与観察の考え方
- 第7回：参与観察の技法
- 第8回：生活史調査の考え方
- 第9回：生活史調査の技法
- 第10回：研究計画書の構想法
- 第11回：研究計画書の作成
- 第12回：研究計画書の発表と討議
- 第13回：研究計画書の再作成
- 第14回：研究計画書の評価
- 第15回：授業のまとめ

6. 成績評価方法：

平常点 50%＋提出物（論文・レポート）50%による

7. 教科書および参考書：

岸政彦ほか著『質的社会調査の方法』有斐閣、2016 年

8. 授業時間外学習：

受講者は、毎回、次の授業で報告するための資料を作成すること

9. その他：なし

科目名：社会変動学研究演習 I / Theory of Social Change (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 月曜日 3 講時

学期：1 学期, **単位数：**2

担当教員：中川 恵 (非常勤講師)

講義コード：LM11306, **科目ナンバリング：**LIH-SOC609J, **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 社会変動学研究演習 I 】

1. 授業題目：

農と食の社会学

2. Course Title (授業題目)：

Sociology of Agriculture and Food

3. 授業の目的と概要：

本講義の目的は、農村社会学とフード・システム論の見方を理解し、こうした見方を通じて農と食の様相や変化を捉えることの可能性と課題について考察することです。

4. 学習の到達目標：

1. 社会学の専門知識を習得する。
2. 関連する社会課題・事象について関心を広げる力を伸長する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

文献購読とレポート作成を軸に授業をすすめます。文献購読では要約と論点整理の担当者を決めて、文献の内容確認をしたあとに議論を通じて考察を深めます。レポートは、先行研究の議論を踏まえて各自作成し、中盤以降におこなう相互のコメントをふまえて期末に提出することとします。

1. ガイダンス / 2. 文献購読 (1) / 3. 文献購読 (2) / 4. 文献購読 (3) /
5. 中間レポート構想発表 / 6. 文献購読 (4) / 7. 文献購読 (5) / 8. 文献購読 (6)
9. 文献購読 (7) / 10. 文献購読 (8) / 11. 文献購読 (9) / 12. 文献購読 (10)
13. 期末レポート発表 (1) / 14. 期末レポート発表 (2) / 15. 総括

6. 成績評価方法：

講義への参加度およびコメントカード [50%]、レポート [50%]

7. 教科書および参考書：

枅湯俊子・谷口吉光・立川雅司編著、2014、『食と農の社会学：生命と地域の視点から』ミネルヴァ書房。

参考書 (適宜指示します)

Carolan M., [2012]2016, The Sociology of Food and Agriculture, 2nd ed., New York: Routledge.

藤田武弘・内藤重之・細野賢治・岸上光克編著、2018、『現代の食料・農業・農村を考える』ミネルヴァ書房。

Goodman D., E. Melanie DuPuis and M. K. Goodman, 2012, Alternative Food Networks: Knowledge, practice, and politics, New York: Routledge.

日本村落研究学会編、1998、『年報 村落社会研究 第 33 集 有機農業運動の展開と地域形成』農山漁村文化協会。

Textbooks are available for purchase at the University Co-op. The reference will be designated at the beginning of the course.

8. 授業時間外学習：

文献購読の際には、事前に指定の参考文献を熟読して論点を整理しておくこと。

Students are required to prepare for class according to the goal and contents of each class.

9. その他：なし

科目名：社会変動学研究演習Ⅱ／ Theory of Social Change(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 火曜日 3 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：田代 志門（准教授）

講義コード：LM22304， 科目ナンバリング：LIH-SOC610J， 使用言語：日本語

【（平成 30 年度以前入学者）対応科目名： 社会変動学研究演習Ⅱ 】

1. 授業題目：

質的研究の最前線

2. Course Title（授業題目）：

Frontiers in Qualitative Sociology

3. 授業の目的と概要：

質的研究の一つである生活史（ライフヒストリー／ライフストーリー）の方法論に関する近年の研究文献の読解を通じて、ポスト実証主義、さらにはポスト構築主義的な生活史の方法論の可能性を探索。具体的には、ポルテッリ、桜井厚、岸政彦らの著作を取り上げる。

4. 学習の到達目標：

- （1）生活史法の現状と課題を理解する。
- （2）ポスト実証主義からポスト構築主義に至る現代の質的研究法の可能性を探索する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 演習の進め方について
2. 生活史研究の系譜
3. ポスト実証主義のオーラルヒストリー（1）
4. ポスト実証主義のオーラルヒストリー（2）
5. ポスト実証主義のオーラルヒストリー（3）
6. ポスト実証主義のオーラルヒストリー（4）
7. 対話的構築主義の現在（1）
8. 対話的構築主義の現在（2）
9. 対話的構築主義の現在（3）
10. 対話的構築主義の現在（4）
11. 対話的構築主義の現在（5）
12. ポスト構築主義的な生活史（1）
13. ポスト構築主義的な生活史（2）
14. ポスト構築主義的な生活史（3）
15. まとめ

6. 成績評価方法：

授業内での報告・発言 50%、課題レポート 50%

7. 教科書および参考書：

アレッサンドロ・ポルテッリ（朴沙羅訳）『オーラルヒストリーとは何か』（水声社、2015 年）

桜井厚・石川良子編『ライフストーリー研究に何ができるか——対話的構築主義の批判的継承』（新曜社、2015 年）

岸政彦『マンゴーと手榴弾——生活史の理論』（勁草書房、2018 年）

Alessandro Portelli, 1991, The Death of Luigi Trastulli and Other Stories, SUNY Press.

Atsushi Sakurai and Ryoko Ishikawa eds., 2015, The Role of Life Story Research, Shinyosha.

Masahiko Kishi, 2018, Mangoes and Grenades, Keisoshobo

8. 授業時間外学習：

毎回、授業前に該当文献を読み込み、自分の意見をまとめて授業に臨む。報告を担当する際は、関連する文献や資料にも目を配り、十分な検討のうえで報告資料を作成する。Students are expected to have read assigned literature prior to each class and to have developed their opinions about the literature. When writing reports (assigned), students a

9. その他：なし

科目名：理論社会学研究演習 I / Theoretical Sociology(Advanced Seminar)I

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

学期：1 学期, **単位数：**2

担当教員：小松 丈晃 (教授)

講義コード：LM12211, **科目ナンバリング：**LIH-SOC611J, **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 理論社会学研究演習 I 】

1. 授業題目：

リスクと不確実性の社会学

2. Course Title (授業題目)：

sociology of risk and uncertainty

3. 授業の目的と概要：

不確実性やリスクは、災害・環境・健康・科学技術・犯罪等といった多様な問題領域と関わり合いながら、昨今の社会学でも重要な概念の一つと目されるようになっていく。この授業ではリスクや不確実性に関する社会学の定評あるテキストを取り上げ、多様なテーマをリスク概念と関連づけながら議論していくことで、受講生とともに、「リスク社会化」する社会を、社会学的にいかに関心するのを探りたい。

4. 学習の到達目標：

- ・社会学の外国語専門文献の読解方法を習得する
- ・リスクや不確実性を社会学的に論じるさいの基本的視角を学ぶ

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 新たなリスクの管理とその課題(1)
2. 新たなリスクの管理とその課題(2)
3. 新たなリスクの管理とその課題(3)
4. リスクと環境、科学技術(1)
5. リスクと環境、科学技術(2)
6. リスクと環境、科学技術(3)
7. 日常生活と余暇の中のリスク(1)
8. 日常生活と余暇の中のリスク(2)
9. 日常生活と余暇の中のリスク(3)
10. 親密な関係とリスク(1)
11. 親密な関係とリスク(2)
12. 親密な関係とリスク(3)
13. 再帰的個人化と規制ガバナンス(1)
14. 再帰的個人化と規制ガバナンス(2)
15. まとめ

6. 成績評価方法：

出席 50%と毎回の報告内容 50%による。

7. 教科書および参考書：

Taylor-Gooby, P. & J. Zinn, 2006, Risk in Social Science, Oxford UP.

J. O. Zinn, 2008, Social Theories of Risk and Uncertainty, Blackwell.

B. Hutter & M. Power, ed., 2005, Organizational Encounters with Risk, Cambridge UP.

8. 授業時間外学習：

受講者は全員、授業時間外に、毎回対象となるテキスト（英語）を読み、授業時間までに、報告レジュメを作成し論点や疑問点を提示しなくてはなりません。

9. その他：なし

科目名：理論社会学研究演習Ⅱ／ Theoretical Sociology(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 1 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：永井 彰（教授）

講義コード：LM23102， 科目ナンバリング：LIH-SOC612J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 理論社会学研究演習Ⅱ 】

1. 授業題目：

ハーバーマスの現代福祉国家論

2. Course Title (授業題目)：

Habermas' s Theory of Modern Welfare State

3. 授業の目的と概要：

Habermas の Faktizität und Geltung を邦訳書を手掛かりに精読し、ハーバーマスの現代福祉国家論の論理構造を理解するとともに、その理論的射程を解明する。

4. 学習の到達目標：

ハーバーマスの現代福祉国家論の論理構造が理解できるようになる。

ハーバーマスの現代福祉国家論の理論的射程について、みずからの視点から論じることができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. "Faktizität und Geltung" の講読
3. "Faktizität und Geltung" の講読
4. "Faktizität und Geltung" の講読
5. "Faktizität und Geltung" の講読
6. "Faktizität und Geltung" の講読
7. "Faktizität und Geltung" の講読
8. "Faktizität und Geltung" の講読
9. 内容についての議論
10. "Faktizität und Geltung" の講読
11. "Faktizität und Geltung" の講読
12. "Faktizität und Geltung" の講読
13. "Faktizität und Geltung" の講読
14. "Faktizität und Geltung" の講読
15. 総括討論

6. 成績評価方法：

毎回の授業での受講票の提出(50%)とレポート(50%)

7. 教科書および参考書：

ユルゲン・ハーバーマス『事実性と妥当性』(上) 未来社、2002 年。

Jürgen Habermas, Faktizität und Geltung. Beiträge zur Diskurstheorie des Rechts und des demokratischen Rechtsstaates, Suhrkamp, Frankfurt am Main 1992, ISBN 3-518-28961-6.

8. 授業時間外学習：

予習：テキストを精読する。

復習：テキストについて理解したことを読解メモにまとめる。

9. その他：なし

科目名：社会学研究実習Ⅰ／Sociology(Research)Ⅰ

曜日・講時：前期 金曜日 3講時. 前期 金曜日 4講時

学期：1学期， 単位数：2

担当教員：永井 彰、小松 丈晃、田代 志門（教授、准教授）

講義コード：LM15310， 科目ナンバリング：LIH-SOC615J， 使用言語：日本語

【（平成30年度以前入学者）対応科目名： 社会学調査実習Ⅰ】

1. 授業題目：

社会調査実習（1）

2. Course Title（授業題目）：

Field Work（1）

3. 授業の目的と概要：

(1) 地域調査（地域社会を対象とした社会調査）の理論と方法を理解する。

(2) 調査の構想や設計から、調査票の作成、現地調査実施、報告書作成にいたる社会調査の全過程を一通り体験し、みずから調査を設計・実施できるノウハウを習得する。

社会調査実習(1)では、現地調査の準備作業までおこなう。

4. 学習の到達目標：

(1) 地域調査（地域社会を対象とした社会調査）の理論と方法を理解できるようになる。

(2) 調査の構想や設計から、調査票の作成、現地調査実施、報告書作成にいたる社会調査の全過程を一通り体験し、みずから調査を設計・実施できるノウハウを習得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：ガイダンス（実習の内容、方法、計画、調査テーマなどについての説明）

第2回：地域調査の理論と方法(1)基本データの収集法

第3回：地域調査の理論と方法(2)農村研究と都市研究の理論と方法

第4回：地域調査の理論と方法(3)生活史研究法

第5回：調査の構想についての議論

第6回：先行研究の検討

第7回：調査対象地についての情報収集と分析

第8回：調査企画の精緻化

第9回：予備調査(1)対象地訪問と対象者の選定

第10回：調査項目の検討(1)属性項目の検討

第11回：調査項目の検討(2)内容分析項目の検討

第12回：調査票の作成(1)前半部分の作成

第13回：調査票の作成(2)後半部分の作成

第14回：予備調査(2)プレテストの実施

第15回：調査票の完成

6. 成績評価方法：

授業への貢献度（100%）

7. 教科書および参考書：

古島敏雄・深井純一 編『地域調査法』東京大学出版会、1985年。

8. 授業時間外学習：

地域調査というプロジェクトの遂行に向けて、受講者全員で取り組む。そのため、各授業の最後に、次回までにすべき課題を確認し、次の授業までに準備作業を整えた上で、授業に臨む。

9. その他：なし

科目名：社会学研究実習Ⅱ／ Sociology (Research) II

曜日・講時：後期 金曜日 3講時, 後期 金曜日 4講時

学期：2学期, **単位数：**2

担当教員：永井 彰、小松 丈晃、田代 志門（教授、准教授）

講義コード：LM25305, **科目ナンバリング：**LIH-SOC616J, **使用言語：**日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： 社会学調査実習Ⅱ】

1. 授業題目：

社会調査実習 (2)

2. Course Title (授業題目)：

Field Work (2)

3. 授業の目的と概要：

(1) 地域調査（地域社会を対象とした社会調査）の理論と方法を理解する。

(2) 調査の構想や設計から、調査票の作成、現地調査実施、報告書作成にいたる社会調査の全過程を一通り体験し、みずから調査を設計・実施できるノウハウを習得する。

社会調査実習(2)では、現地調査の実施から調査データの分析、報告書の作成、分析結果の口頭発表までおこなう。

4. 学習の到達目標：

(1) 地域調査（地域社会を対象とした社会調査）の理論と方法を理解できるようになる。

(2) 調査の構想や設計から、調査票の作成、現地調査実施、報告書作成にいたる社会調査の全過程を一通り体験し、みずから調査を設計・実施できるノウハウを習得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：現地調査についてのガイダンス（調査倫理や、訪問先でのマナーの確認を含む）

第2回：地域調査の実施(1) 1回目の現地調査

第3回：地域調査の実施(2) 2回目の現地調査

第4回：地域調査の実施(3) 3回目の現地調査

第5回：現地調査データの整理集計

第6回：分析方針の検討

第7回：調査結果の分析(1) 属性項目の分析

第8回：調査結果の分析(2) 量的データの分析

第9回：調査結果の分析(3) 質的データの分析

第10回：補充調査の実施

第11回：報告書の企画構成の検討

第12回：報告書の作成(1) 基本属性の記述と点検

第13回：報告書の作成(2) 量的・質的分析事項の記述と点検

第14回：報告の口頭発表

第15回：対象地での研究成果発表

6. 成績評価方法：

授業への貢献度（100%）

7. 教科書および参考書：

古島敏雄・深井純一 編『地域調査法』東京大学出版会、1985年。

8. 授業時間外学習：

地域調査というプロジェクトの遂行に向けて、受講者全員で取り組む。そのため、各授業の最後に、次回までにすべき課題を確認し、次の授業までに準備作業を整えた上で、授業に臨む。

9. その他：なし